
うちの魔王

てゐ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うちの魔王

【Nコード】

N9709Y

【作者名】

てゐ

【あらすじ】

魔王とは幾度倒しても復活しこの世界に降りかかる災厄である。

byケイネス・D・デュメロス

初投稿です。生暖かい目で見ながら罵ってみてください。作者がOTLします

魔王襲来 第一話（前書き）

この小説はアタマワルインジャーネーノ成分が致死量レベルの黒歴史
確定小説です。

むしろそれがいい。というかたのみお読みくださいバカになります

魔王襲来 第一話

魔王襲来

第一話

この世界には謎がある。

曰く、何故幼女はあんなにも我々を惹きつけるのか。

曰く、何故魔王は復活するのか。

曰く、あの娘のパンツは何色なのか。

曰く、イケメンは死に絶える。

この世界は謎だらけだ。

セント・グレイシア王国国立大図書館所蔵

ケイネス・D・デュメロス著『世界の不思議1654年版』リア充
爆発しろ〜』より抜粋

「・・・なに・・・コレ。」

王族専用船の中の一室で、一人の少女が読んでいた本から目線はずして呟く。

部屋の中にはこれから少女が辿る運命を示唆するように、どんよりとした空気が立ち込めていた。窓から見えるほかの船も恐らくは同じ目的で来ているのだろう、そして同じ運命を辿るかもしれないことを少女は感じ取っていた。一体、この中の何隻が中にいる使者を連れて本国へと帰ることができるのだろうか。

「姫様。これは古の大魔法使い、『桜のケイネス』が記した大変貴重な魔王に関する資料でございます。姫様はこれより単身魔王城に赴き和平を結ばねば成りません、そのための下調べは必須かと。」
姫様と呼ばれた少女。クリステイアーネ・F・G・エルメスは優雅に茶を飲む護衛の老人をジト目で睨む。グレイシアの誇る白百合とまで言われた美貌は呆れるを通り越してドン引きしたような顔にな

り、いつもなら蒼穹のごとく澄み切った瞳も今は大荒れの海のように濁っていた。

「コレの何処が魔王に関する資料なわけ？言っていることただの変態だし、魔王のこと一行しか触れてないし、最後のは謎でもなんでもないし、そもそもタイトルからしてバカ丸出しじゃないの。というか1654年版って何？続き物なわけ？本当に大魔法使いが書いたものなの？コレ。あと、『桜のケイネス』ってだれよ。そんな名前聞いたこともないのだけれど」

「ケイネスは我々（ロリコン）の仲間内では有名な哲学者です。『桜』の異名と大魔法使いという称号は一生を学問に捧げた彼に対する尊敬の現われです。ツププ。私には到底真似できません。」

「笑ってるじゃないの！尊敬じゃなくて蔑んでるしっ！え、じゃあ何。桜ってそういう意味？！『桜のケイネス』って完全に虐めじゃないの！ケイネス皆から笑われてるじゃないの！あと、ケイネス別に捧げたくて捧げたんじゃないよね？！めちやくちや妬んでるよ！」

「H A - H A - H A。話が脱線していませんぞ、姫様。これくらいしか魔王に関する資料が無いのですから文句を言わないでください。ほら、最後の辺りに魔王に関する記述が。」

言われて最後の辺りのページを開くクリスティアーネ、

「家の国の図書館ってそんなにダメなの？えーっと、『魔王とは幾度倒しても復活しこの世界に降りかかる災厄である。その周期は不定期で、全くの別人がやってくるようだ。・・・鬱だ、死のう。転生説も囁かれているが過去に封印されているにも関わらず新しい魔王が出てきているので代替わりしていると見ていいだろう。魔王の部下達も恐ろしいほどの戦闘能力を有していることからみても彼らから新たな魔王が選ばれているのかもしれない。魔王の性格、政治的信条がバラバラなところから見て政権交代が頻繁に行われているようである。もう・・・ゴールしてもいいよね？もしかすると魔界とは一枚岩ではないのだろうか、指導者を失い新興勢力に台頭されて

いる可能性がある。詳しいことは直接魔界に赴かなければ分からないが、浮遊する城や戦艦で来る上に魔王軍が撤退するとゲートが閉じてしまう以上これらは推測の域を出ない。もう疲れたよ、さよなら」

「……………」

「ケイネスウウウツ！なにこれ、ケイネスものすごく追い詰められてるよ！意外とまじめなこと書いてるけどそっちよりもケイネスの状態のほうが気になるんですけどっ！ケイネスどうなったの?!」

「……ムチャしやがって」

「いやいやいや、ケイネスが原因じゃないでしょ?!ケイネス被害者だよな?コレ明らかに虐められて死んでるよね?!」

「あ、魔王の城が見えてきましたよ。ほらほら、生贄のお姫様らしく悲しそうな雰囲気出してください。」

「出せるかああああ!!こんな物見せられてシリアスな空気出せるわけ無いでしょ?!ていうかやつぱり生贄?!生贄なの?死ぬかもしれないって覚悟はしてたけど交渉材料私かよ!!」

「……ツチ。さっさとしろや、初心なネンネじゃあるまいしよお。」

「舌打ち?ねえ今舌打ちした?自国のお姫様に対して。」

「自分でお姫様とか、ないわー」

「悪い?!真正正銘のお姫様が自分でお姫様って言って悪いの?つか、あんたキャラが壊れすぎでしょ!最初のイメージ何処行った!」

「正直な話今から死ぬって決まっている人に媚売ってもねー?」

「上等よ、表で爺い!!私が死ぬ前にアンタを殺す!!」

まもなく魔王城へとつく船の中は悲壮な空気に包まれていた。

魔王襲来 第一話（後書き）

はじまっちゃったよ・・・どじごよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9709y/>

うちの魔王

2011年11月29日03時48分発行